

[年度] 令和2年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策

[担当機関名] 農業試験場環境部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

近年、日高地域のキヌサヤエンドウ栽培で、莢のガク枯れや白ぶくれ症が多発し、品質が低下して問題となっています。これらの被害は、ハナアザミウマによる吸汁や産卵が原因となって起こりますが、ハナアザミウマの発生源、エンドウへの飛来時期、有効薬剤等が明らかになっておらず、積極的な防除が行われていないのが現状です。そこで、被害莢を減らすため、ハナアザミウマの防除対策の確立に取り組みました。



図1 ハナアザミウマ雌成虫(写真中)とその被害(写真左:ガク枯れ、右:白ぶくれ症)

[研究の成果]

1. キヌサヤエンドウほ場周辺で開花していた雑草を調査したところ、クズとセイタカアワダチソウにハナアザミウマが多数生息していました(図2)。
2. ほ場に青色粘着トラップを設置して飛来数を調査した結果、ハナアザミウマの飛来のピークは、9月下旬~10月上旬と11月の合計2回でした(図3)。1回目はクズの花が咲き終わる時期、2回目はセイタカアワダチソウの満開後でした。
3. さやえんどうに農薬登録のある薬剤のハナアザミウマに対する防除効果をほ場で確認したところ、最も白ぶくれ症被害が少なかったのはトレボン乳剤でした(図4)。
4. 畝の両側に光反射マルチ(タイベック 700AG(白色反射マルチ)またはポーチューシルバーL(シルバーマルチ))を設置することで、ハナアザミウマの被害を抑えることができました(図5。ガク枯れ莢率データは省略)。
5. 白色防風ネット挟み込み被覆栽培(図6)を行うと、ガク枯れ莢率が3年間平均0.5%、白ぶくれ症莢率が同2.6%と、慣行栽培と比べて被害莢率が大幅に低くなりました(図7。ガク枯れ莢率データは省略)。



図2 キヌサヤエンドウほ場周辺でハナアザミウマが生息していた雑草とその割合

調査雑草種数 9月:21種、10月:23種、11月:16種

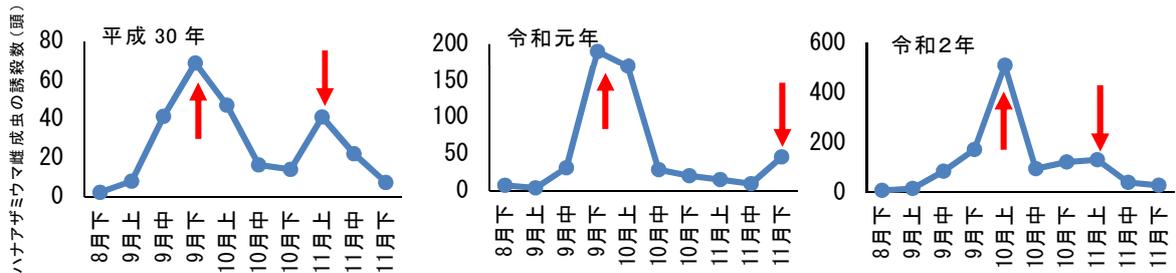


図3 青色粘着トラップによるハナアザミウマ雌成虫の時期別誘殺数(平成30年～令和2年)

図中の赤矢印は飛来のピークを示す。

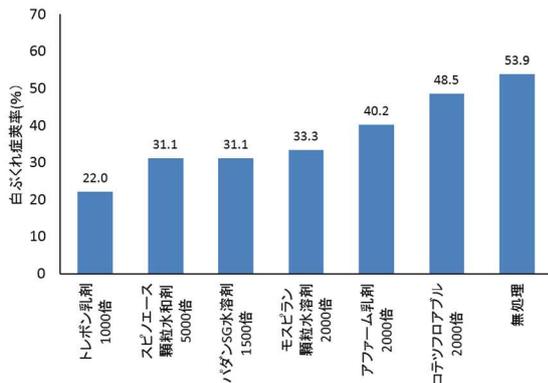


図4 ほ場試験における各種薬剤の白ぶくれ症防止効果

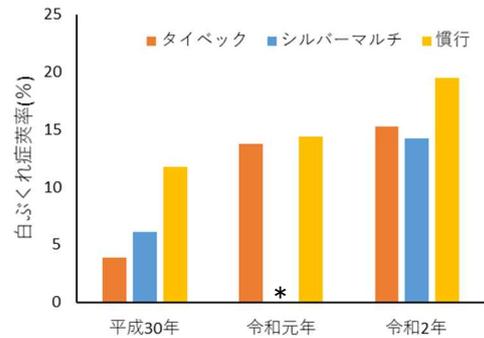


図5 光反射マルチ設置試験の白ぶくれ症防止効果

*: 令和元年度はシルバーマルチ区を設置しなかった



図6 白色防風ネット(4mm目合い)挟み込み被覆栽培の様子

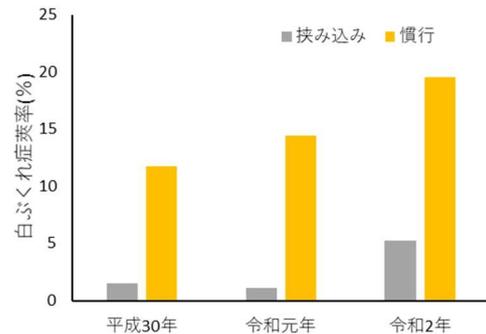


図7 白色防風ネット挟み込み被覆栽培試験の白ぶくれ症防止効果

[成果のポイントと活用]

1. ハナアザミウマの飛来は9月下旬頃に急増するので、9月下旬から定期的な薬剤防除を開始すると被害軽減が期待できます。
2. クズやセイタカアワダチソウはハナアザミウマの飛来源と考えられるので、ほ場周辺の除草を行うことで被害が軽減します。
3. 光反射マルチの設置や、白色防風ネット挟み込み被覆栽培を行うとハナアザミウマの被害を軽減することができます。

[その他]

予算区分: 県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業)

研究期間: 平成30～令和2年

研究担当者: 高岸香里 協力: JA 紀州、日高振興局

発表論文等: なし

ホームページ掲載の可否: 可